

## 地域密着型サービス自己評価票

- 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 20 年 2 月 22 日
事業所名	グループホームエバグリーン 「光」ユニット
事業所番号	2372001111
記入者名	職名 管理者 氏名 村井 純
連絡先電話番号	0532-62-4434

(様式1)

## 「光」自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「気持良く自己実現が出来る援助」に基づいて、行きたい時に近くのスーパーでの買物、音楽会（歌は友達）、散歩等に努めている。毎月ゴルフへ出掛ける人もある。寺の参道や道端の草取りも日常的に行っている。	<input type="radio"/>	自己実現が出来ない(意思疎通不可で寝たきり全介助など)利用者へ、家族に好きな物など尋ねたりして配慮していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に職員会議等で話し合う機会を持ち、職員一人ひとりが意識付けされる様に努力している。例えば、ボランティアや実習生の中に手がかかる場合もあるが、施設は活動の場であり勉強の場でもある皆の社会資源であるから積極的に受ける旨など日常的に話している。	<input type="radio"/>	常に稚気の人達が行き交う
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族、地域の方が来訪された時、すぐ目にとまる所に掲示してある「エバ通信」等で理解して頂ける様に取り組んでいる。	<input type="radio"/>	家族交流会等でも取り組んでいる。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩、買物時は、挨拶を交わしたり、行事等の声掛けをしたり又、一品寄付や廃品回収など協力している。隣の保育園は散歩していると縄跳びを見てちょうだいなどと呼ばれたり、お茶会や毎月の誕生会、運動会などに招待して下さる。朝晩、併設施設を通過してゴミ出しに行くときとすれ違う人達と挨拶を交わす。道の草取りもしている。	<input type="radio"/>	草取りの範囲を広げようと思っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月ごとの行事、保育園での誕生会、運動会、校区中学校の文化祭、防災訓練等に参加し、地域の人々との交流に努めている。	<input type="radio"/>	日常的にどンドン出掛けて声を掛け合いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	積極的に実習生を受け入れている。地域で行われる介護教室や、ヘルパー2級講座の講師、老人クラブ他へも出向き講義等している。	○	老人クラブと一緒に、認知症にやさしい町づくりを進めたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表をテキストと考えている。2回目の外部評価での助言を受けて、理念や方針を元に各自の取り組みの目標を掲げ、3ヶ月ごとに評価、進捗状況を記録している。またご家族に行事以外の、日常の入浴や食事などの様子をお知らせすることが大切と知り話をしている。	○	研鑽をし、当たり前の住民として暮らしを楽しめる場所であり、地域に溶け込んだ暮らしであるよう向上したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月一回、運営推進会議に利用者と家族の代表者、4校区の民生委員の方々の意見を参考に、サービス向上に活かしている。	○	家族の意見から誤解も多分にあるように思うので、分かり易く1日の流れの話や取り組み
9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員が、毎月来訪され意見等聞いている。運営推進会議には、市の代行として地域包括支援センターの参加がある。市から認知症サポーター養成の依頼を受けて講義に出掛けている。	○	何でも気軽に尋ねられる関係にある。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	1名が権利擁護事業を、1名が成年後見人制度を利用している。該当者のあるユニットと管理者はよく連携を取って働いている。	○	全職員がよく理解していることではないので、職員会議の場所で勉強して行きたい。
11	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故、ヒヤリハット報告書に基づいて、具体的な事例を挙げながら職員会議の時に研修をして、事故・虐待の防止等に努めている。	○	デイサービス利用の方々や相談者から虐待が考えられる場合は、併設地域包括支援センターに連絡することになっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者とユニット責任者は入所時に説明をし、質問に答えている。利用約款などを貼り出している。毎月の請求書と一緒に疑問質問苦情等を伺っている。1年に2回の家族交流会では、近況の報告をし、座談会を設けて職員達と家族が落ち着いて話し合える場を設けている。	<input type="radio"/>	家族の日頃からある胸の内を聞かせていただけるよう、面会時などに話し掛けている。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの苦情等は、その都度職員が聞き、カンファレンス等で発表し、検討している。	<input type="radio"/>	何でも建設的に、利用者の利益最優先に考える。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	受診の際は、まず現状を報告し、受診することを伝え、或いは相談し、結果を必ず報告している。他、福祉用具など購入したい時、また行事や一時帰宅などの出欠など連絡する。家族が面会に来た際、現状報告し、1ヶ月のケア評価に目を通してもらい書名を受けている。	<input type="radio"/>	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を施設長が担当している。その他、家族等からの苦情等を職員が聞いた時は、施設長に報告している。朝夕の連絡会で伝達し改善策を話合っている。	<input type="radio"/>	苦情受付窓口設置。苦情処理のために講ずる措置の概要を掲示。毎月の請求書と一緒にご意見を伺っている。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、グループホーム・デイサービス合同でカンファレンスを行っている。グループホーム職員のみ会議は随時。管理者は毎月の理事会で報告をしている。結果を持って帰ることもある。	<input type="radio"/>	勤務表作成について、各職員の休み等希望をほぼ全部聞いている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者・家族のニーズに合わせて遅番等をつける等して職員の人員確保している。余裕のあるシフトを作成している。突然の休みに対しても、代替がほぼ確保できる職員数を確保している。	<input type="radio"/>	今後もグループホームに合った人材を見つけて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員は6ヶ月程度で各ユニットを廻るが、影響は最小限度になるように配慮している。福祉部門内で異動がある場合もあるが、十分配慮している。数年間一緒にの建物に居ると他ユニット職員でも馴染みになっている様子である。	○	やさしく、安心していただけるような対応が統一されていれば、あまり心配することは無い様子である。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には力を入れている。日々の勤務上の研修の他、毎年、外部研修は50数回、内部研修は40回程度行われている。資格取得や自主的な研修を応援している。	○	自主研修（自分で研修したいものを探してくる）が増えると良いと思っている。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の他グループホームと祭に招待したりされたりしている。職員も他施設へレクリエーションを学びに行ったり、他施設からの見学を受けている。	○	一層交流を図って、良い点や参考になる点を吸収したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は個人面談をして聞き役をする。幾人かは良い結果であった。しかし多くの職員は、同じ場所で昼食を取り、職員休憩室も隣の部屋にあり、離れた場所で休憩が取れていない。法人としてはボーリング大会。クリスマス・忘年会・新人歓迎会等が行われて、5年・10年勤続者に旅行のプレゼントがある。	○	グループホームという職場が癒される場所であるよう努めたい。ある職員は、自分のユニットに出勤するとホッとすると言う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(福祉部門でヘルパー2九の講座を開き、無資格者は居ない。) 職員の資格取得等は積極的に取り組まれている。行事など役割は自分の選択を重視、様々な責任者を設けている。法人では夜勤手当を上げるなどできることを少しずつ改善している。	○	職員各個が自分のペースで勉強し、ひいては資格取得に繋がるよう応援する。建設的な良い仲間が集まるよう努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に訪問調査を行い、その時に本人の気持ちをよく聴き、受けとめる努力をしている。訪問調査後は職員に情報を伝えている。	○  訪問調査に行った職員はもちろん、ユニット内でも情報を把握する努力をしている。初めて利用される時も本人の気持ちを大切にしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	訪問調査時、本人の気持ちはもちろん家族の不安等もしっかり聴き、受けとめる努力をしている。	○  家族の希望・要望・不安等に配慮し、初めて利用された時には様子を伝え、少しでも不安等が解消される様に努めている。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族・本人の要望を把握し、他の職種に相談しながらサービス提供している。	○  家族・本人の気持ちを第一に考える為にも、本人に深くさりげなく関わる事で、早く信頼関係を作れるように努力している。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域密着型サービスを基盤にし、本人が納得出来る様な雰囲気作りをし、早く馴染めるような環境作りをしている。	○  事前に家族の方と一緒に見学して頂いたり、初めて利用される際、希望があれば一緒に過ごして頂いたりしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方通行にならない様に努めている。食事作り・掃除・畑での野菜作り等、利用者の方一人ひとりの特技をいかし、共に喜びを共感している	○  カンファレンスを開いたり、連絡帳を使い一方的な介護にならない様に努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時、月間評価等を通じて現状報告している。その時に、家族の要望や気持ちを聴いている。	<input type="radio"/>	月間評価だけではなく、利用者の行動や笑顔、会話のやり取り等も家族に伝えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	落ち着いた雰囲気、家族の方が面会しやすい環境を作っている。	<input type="radio"/>	本人の希望を家族に伝え、電話したり、面会に来てもらったりしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々（盆・正月等）帰省時に、馴染みの人に会えたり、その場所に行ったりしている。	<input type="radio"/>	「行きたい」と言われた時にその場所へ行ける様にしていきたい。家族と連絡を取り、外出しやすい環境作りに努めていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	親しい利用者同士で席を近くしたり、他のユニットから会いに来れる環境作りが出来ている。	<input type="radio"/>	気の合う利用者同士が楽しんで過ごせる環境作りを、又、とけ込めない利用者には職員が間に入り輪を広げている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ショートステイ等でグループホームを利用した方が継続的にデイサービスを利用するなど、デイサービス・グループホーム・共用型通所の連携を行っている。	<input type="radio"/>	デイサービスとグループホーム（特に共用型通所）が連携し、視野の広いケアを行う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	趣味・趣向を把握し、生活の中に取り入れられるよう支援している。押し付けでなく、本人が興味を持っている物などを提供している。	<input type="radio"/>	個別に趣味の外出や買物、散歩等に細かく対応する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の入退所に伴い、新たな利用者の生活歴や馴染み等を理解し、支援に生かしているとともに、それ以前からの利用者についても再度見直しを行った。	<input type="radio"/>	個人記録などでもそれらの事が容易に把握できるような記録作りを行う。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	記録や連絡ノートなどを用いて、日々の過ごし方や心身状態の変化を伝え合い、視野を広げ利用者を把握している。	<input type="radio"/>	定期的に職場間、職員間での意見交換・情報交換の場を積極的に設ける。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネージャーや家族の意見、各職員が拾い上げた利用者本人の意向を基にカンファレンスを行い、介護計画をまとめ、作成した。	<input type="radio"/>	担当者会議以外でも、関係者の集まり、話し合う場を定期的に設け、現状に基づいた計画作りを行う。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画がそのままでは、現状に対応しづらい場合がある為、カンファレンスを開き、前後を検討しながら、計画を見直し作り直した。	<input type="radio"/>	必要に応じて、カンファレンスを臨機応変に行う事で、より深く密接な介護計画を作成出来る体制作りを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員が、利用者個々に対して、日常の動きや気づいた事を随時記入し、お互いを確認し合っている。また、その記録をカンファレンス等にて検討し、その後の介護計画に活かしていく様になっている。	<input type="radio"/>	個別記録が、誰にでも見やすく、把握し易いよう、記入方法や様式を検討し、改善を加える。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスにおいては、その日の利用状況や本人・家族の状況、意向等に応じてグループホームにおける共用型との連携した利用の受け入れ体制を取っている。	<input type="radio"/>	施設の特徴を生かし、利用者や家族の要望に最大限に答えられる体制を作る。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の催しや、学校・保育園等の行事へ積極的に参加したり、学校等のボランティアを受け入れ、交流を持っている。	<input type="radio"/>	多方面、多分野のボランティアを受け入れる事で、利用者に様々な物に触れる機会を提供する。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	理容ボランティア、化粧ボランティア、短歌の会等を展開している。	<input type="radio"/>	利用者の趣味・趣向が共有できるグループへのボランティア要請。(将棋、囲碁、絵画、書道等)
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	隣接する包括支援センターと連携し、長期的・継続的なケアマネジメントを協働している。	<input type="radio"/>	積極的な意見交換や情報交換を行う事で、より利用者を把握し、総合的なケアマネジメントを提供する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の主治医との連携を図るとともに、個人のかかりつけ医への受診も家族と連携を取りながら支援している。	<input type="radio"/>	日常的に利用者に答えられる受診支援体制を整える。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医により、認知症の診断を行っている。法人内に2名の認知症サポート医が居る。	<input type="radio"/>	個別に主治医を設け、定期的に受診を行っている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日中は看護師を一人確保しており、常時利用者の健康管理を行っている。夜間は、隣接する老健の看護師の協力を得ている。	<input type="radio"/>	利用者一人ひとりの状況を把握しており、早急な対応を心掛けている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院と情報交換を行い、早期退院に努めている。	<input type="radio"/>	早期退院出来る様、病院と協力し、退院後もスムーズに受け入れられる様に体制を整えている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族と話し合い、今後の希望を聞いている。また、対応出来ない場合でも、安心して介護を受けられる様な場所の提供をしている。	<input type="radio"/>	本人・家族・医療関係者と話し合い、希望に沿った介護を提供できる様支援している。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状態に合わせ、随時話し合いを持ち、ケアを統一している。また、医師とも連携し支援している。	<input type="radio"/>	家族・医師と相談し、安心した最後が迎えられる様心掛けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替え時には、細かく情報交換を行い、ダメージを最小限に止めている。	<input type="radio"/>	他の事業所に移る際には、サマリーを提供し、情報交換している。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を損ねない様な声掛け、態度を心掛け、個人情報等の書類は詰所で管理している。	<input type="radio"/>	利用者の尊厳、プライバシーを尊重する様心掛けている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望を聞き出せる様努力している。出来るだけ本人に決定してもらえる様声掛けしている。	<input type="radio"/>	利用者の希望を聞き、実行に移せる様努めている。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの意思を尊重し、無理強いしない様に努めている。	<input type="radio"/>	職員の都合を優先せず、利用者一人ひとりに合わせた援助が出来る様、今後も心掛けていきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望時、理容・美容に行ける様支援している。	<input type="radio"/>	本人の好みの物を選んでもらう等、おしゃれをする気持ちを持ち続けてもらえる様努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせ、出来る事を職員と一緒に 行っている。	<input type="radio"/>	利用者に合わせ、出来る事を声掛けし行っ てもらっている。
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ 等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせ て日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好に合わせた物を選んでもらい提供して いる。	<input type="radio"/>	本人の好みの物を聞き出し、購入したり本人と買 物に出掛ける事で日々の楽しみを増やしている。
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かし て気持ちよく排泄できるよう支援している	行動特徴を把握し、時間毎にトイレ誘導を行って いる。個々の排泄チェック表（いつ頃出るか）を 活用している。表情で排便したいかどうか把握し ている。排便後はウヲッシュレットを使用する。 便の状態を把握し、センナ茶や医師の指示で下剤 服用したりする。	<input type="radio"/>	一層把握に努め、トイレですっきりしたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわ ずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて、入浴を楽しめるように支援している	本人に声掛けし入浴している。拒否のある方は仲 の良い方と一緒に入る等工夫している。	<input type="radio"/>	
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れ るよう支援している	空調や照明などを調節している。日中はできるだ け体を動かす。人により、夕食以降の水分を控えて 夜間頻尿に対応したりする場合もある。ゆったり としたケアで殆どの方が夜間はよく休まれる。	<input type="radio"/>	夜間のいつの時間も職員が起きているので安心し て眠れると言う人がある。みんな落ち着いて休ん でいる。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう に、一人ひとりの生活歴や力を活かした役 割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理や掃除、縫い物等お互いの得意な事を活か せる様声掛けしている。	<input type="radio"/>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が管理している、又はいつでも使える様に預かっている。	<input type="radio"/>	
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	声掛けや希望により、散歩に行っている。(社寺、施設周辺散策、買物等)	<input type="radio"/>	
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者とその家族との一泊旅行や遠足、ドライブを行っている。個人の希望に合わせ、外食したり音楽会に参加したりしている。渥美半島、田原サンテパーク、豊川魚魚ランド、豊川稲荷、三ヶ日温泉、湯谷温泉など一泊旅行もしている。都合の良い家族も一緒に楽しんでいる。	<input type="radio"/>	今後も地域のサークル、外出等積極的に取り組んでいく。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状の支援をしている。本人希望により電話を掛けている。	<input type="radio"/>	普段から字を書く練習をしている。学習療法を続けたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室やソファでゆっくりと落ち着いて話ができる様お茶など出している。面会・外出・外泊・家族等の宿泊は自由である。赤ちゃんや、犬連れも歓迎している。	<input type="radio"/>	もっともっと地域の人達が訪れて欲しい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスを行い、情報を全職員に伝えている。身体拘束ゼロの取り組みもある。	<input type="radio"/>	拘束はしないが原則だが、やむを得ず身体拘束をする場合は、理由と期間・方法など明記して、家族等の承諾を得ることとしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は鍵をかけていない。エレベーターも自由に利用可能。夜間・外出時は本人がかける場合もある。</p> <p>○</p>	<p>玄関がデイサービスと共有にて、事務所が不在の時は、外からは自由に入れるが、出る時はテンキーを押す。しょっちゅう出入りしたい人には拘束と言えよう。せめて、いつでもどこへでも1体1でもお供しようという方針である。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>職員が連携し会って、声掛け等行い、常に利用者を見守っている。転倒の危険性のある人は常に誰かが寄り添っている。また今誰がどこに誰と居るかは認識できている。</p> <p>○</p>	<p>様々なヒヤリハットのケースから、思わない時に、思わない出来事が起こることを念頭に置いて、リスク回避に努めている。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>刃物は預かり、一緒に作業する時や見守りの下で使用している。針は本数を数え、付き添い、仕舞う時は確認している。薬は鍵の掛かる場所に保管されている。</p> <p>○</p>	<p>常に点検を怠らない。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>職員間で日々の利用者の状態の情報を共有している。安全管理部会とリスクマネジメント部会は隔つきに開催。ヒヤリハットは蓄積（記録）し研修の材料としている。</p> <p>○</p>	<p>事故が起きると、良いことも不自由になりがちなので注意を払っている。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>看護師が常駐している。急変時や事故等の対応は出来ている。救急時のマニュアルが見やすい場所に貼ってある。AEDの訓練は全員の職員が受けている。上級・普通救命救急の講座（日勤扱い）を受けている。</p> <p>○</p>	<p>ほとんどの職員が普通救命、上級救命の講習を受けていく。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>防火管理者を定めて、計画に沿って、定期的に訓練を実施している。地域ぐるみの訓練にも参加している。</p> <p>○</p>	<p>今後も定期的に取り組んでいく。又毎年地域ぐるみの防災訓練がしたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切に した対応策を話し合っている	体調の急変時等、家族に随時報告・説明している。一人ひとりの生活リズムを大切に心掛けている。非常に転倒の危険のある人は、家族から事前に承諾の旨を書きいただいている。	○	今後も家族とよく話し合っていく。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝食後、毎日バイタルチェックを行い、体調の変化があれば看護師に報告し(異変の早期発見に努めている)対応実施している。	○	常に個々のバイタルを把握していて正常か異常かを早期に発見するようにしている。
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回の薬をセットをし、複数で服用の確認もしている。薬局から届く薬の効用などは各個の療養録にファイルされていてセットの都度目を通している。今のところ薬のヒヤリハットは無い。	○	薬についてもっと勉強して行きたい。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っている。散歩等で腸の働きを促したり、おやつ等にも食物繊維の多いものを出す等工夫している。便秘気味の方は医師から漢方や下剤の指示を受けている。	○	予防として栄養士や家族へ相談を行う。医師や看護師の指示を仰ぐ。個々の特徴を把握する。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせ、声掛け、見守り介助にて毎食後行っている。	○	今後も継続していく。
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの毎食後の摂取量をチェックしている。利用者の嗜好調査を時々行い、献立に取り入れている。	○	一人ひとりの嚥下状態等に合わせ、水分補給・食事摂取を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染対策委員会を設け、職員全員に報告しマニュアル作成を行っている。	○	職員全員が手洗いを徹底し、インフルエンザの予防接種を行っている。感染予防の勉強会も行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はかならず加熱している。調理器具は漂白剤で殺菌している。	○	食中毒予防の為、サンプルの保存を行っている。衛生の為、冷蔵庫内を清潔にしている。定期的に業者によるゴキブリ駆除、消毒、ワックスがけ等の環境整備を行っている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りにガーデニングをし、季節感を出す様心掛けている。	○	利用者の描いた絵や作品等を季節感に応じてさりげなく飾っている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられる様に壁画を作ったり、花を飾ったりしている。	○	不快感を持たない様にこまめに掃除をしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの状態に合わせた居場所作りを心掛けている。畳コーナー、お気に入りのソファ2ヶ所、食卓など好きな場所が出来ている。	○	フロア、居室に写真や作品等飾っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が長年利用していた物を置く事により穏やかに過ごせる様にしている。中にはきれいに部屋中飾り付けされている人もある。	<input type="radio"/>	入所の際には利用者が長年愛用していた物を持ち込んでいただいている。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室やフロア全体の空気の流れを非常にこまめに行い、湿度調整は利用者の体調に応じて調整している。	<input type="radio"/>	
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの利用者に合った部屋を用意している。(畳の有無、布団やベッド等)必要になって来た人の部屋に手すりを付けている。	<input type="radio"/>	徐々に手すりを増やして行きたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	できる・できない(アセスメント)シートを活用して、個々に合わせて援助している。カレンダー・献立表・トイレの場所、利用者の部屋が分かり易い様印や名前を書いて混乱しないようにしている。	<input type="radio"/>	一層楽しく工夫したい。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には畑があり、利用者と職員と一緒に野菜作りを楽しむ事が出来る。玄関や屋上の物干しの足元のプランターで花を育て、水遣りの後体操したりする。	<input type="radio"/>	古代活動を増やして行きたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにのみある (共用室が利用されていない日) ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように (共用型利用者) ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

エバグリーンは山や公園など環境に大変恵まれていて、空気もよく、芽吹いたばかりの山、春の桜、秋の紅葉と四季折々を楽しむことができ、冬は積雪も無く温暖です。20mほどで商店や学校、金融機関などが並ぶ街道があり、買物にも便利です。施設の理念は「その人らしく気持ち良く自己実現ができる援助」です。80数年間、一杯遊び一杯学んだことの結集が今あるご自分達ですから、どう生きるか何をしたいかは個々が決めて動かれます。職員は横に居て、それができるようにさり気なく援助し応援することを使命としています。法人の方針は、「安心・安全」です。エバグリーンの方針は「ゆったりと暮らしを楽しむ」「地域の皆の社会資源として努める」「心身の機能低下防止」などです。また面会・外出・外泊は自由で、家族等と一緒に宿泊されることも自由です。地域の方々が多く参加されている運営推進会議が、6年前の設立当初から「サービス苦情解決第三者委員会」として続いて来たように、地域に開かれた施設を目指しています。